自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0195300108		
法人名	株式会社 慈光		
事業所名	グループホームたんぽぽ		
所在地	斜里郡斜里町朝日町36-2		
自己評価作成日	2023. 3. 6	評価結果市町村受理日	2023. 4. 10

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> ・職員同士のコミュニケーションをはかりよりよい介護につなげている ・利用者のご家族とのコミュニケーションを密に図っている ・インターネットの研修を活用しながら様々な学びの機会を設けている

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=koubou_detail_022_kani=true&JigvosvoCd=0195300108-00&ServiceCd=320
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	令和5年3月31日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>「グループホームたんぽぽ」は、斜里町朝日町の閑静な住宅地に株式会社慈光により運営されている1ユニットの事業所で、法人として町内にもう1か所、1ユニットのグループホームと小規模多機能型事業所、児童通所施設を開設している。代表者は寺院の住職でもあり、町の福祉関連の委員や特別養護老人ホームの常任理事も務め、町内の福祉事業発展の一翼を担っている。当事業所では同法人のグループホームと避難訓練等、様々な運営を連携を取りながら行っている。代表者、管理者、職員は3事業所(グループホーム、小規模多機能型事業所)共通の理念「たんぽぽ憲章」を指針として実践し、やさしく温かな利用者本位の介護の実践に取り組んでいる。更に、利用者全員に『眠りSCAN』を導入し科学的な視点を取り入れ、利用者のストレスに配慮している。「たんぽぽ憲章」の他に年間の事業所目標や職員個人目標を設定したり、オンラインの研修教材を使用した研修を行い職員育成にも計画的に取り組んでおり、今年度外国人職員も採用している。現在、感染症の流行により家族との面会や地域との交流が難しい状況となっているが毎月、家族には事業所便りに写真を添えて報告し、信頼関係を築いている。利用者一人ひとりの心を大切に、穏やかに楽しみのある暮らしの提供に取り組んでいる様子が伺える事業所である。</p>
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほほ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほほ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほほ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほほ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほほ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほほ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほほ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほほ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほほ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほほ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほほ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎月の会議の際に昭和を行い、職員全体で再確認している。	3事業所共通の理念「たんぽぽ憲章」を玄関、事務所の目に付く所に掲示し毎月の職員会議時に唱和し浸透を図り実践に努めている。「たんぽぽ憲章」は事業所便りにも掲載され家族にも知らせている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナの影響で中々難しい状況である	町内会に加入し広報の配布を受けている。感染症流行以前は町内行事に参加していたが、現在参加は見合わせている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域への発信は行えてはいない。今後の課題である		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ渦で実施することができていない	感染症流行以前は隣接する小規模多機能型事業所と合同で定期的開催していたが、現在は書面会議も含めて実施していない状況となっている。	事業所の状況を家族や地域住民に理解してもらい運営に反映させていくためにも書面会議を含め運営推進会議開催の工夫を期待したい。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	看護師が病院受診にいった際など、医師等と連携を図っている。	代表者が町の介護事業の委員を引き受けており、各種報告や相談、情報交換等、連携を取りながら運営に反映している。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	毎月の会議で読み上げを行い周知徹底を図っている	職員全員を身体拘束適正化委員会のメンバーとして会議時に検討している。毎年の研修計画に身体拘束の研修を設定し、身体拘束の及ぼす弊害を理解し、身体拘束をしない介護の実践に取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員会議で研修を行う事で意識付けを行っている		

グループホーム たんぽぽ

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修等の機会を設けているが、活用に該当する方がいない状況である。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	介護保険法での加算の新設等の際、ご家族への手紙等で周知を行った		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	個別には設けてはいないが、連絡を取った際などに聞き取りは行っている。	感染症の流行で家族との面会は制限している状況だが、事業所便りを発行し写真を同封して様子を知らせている。何かあった時には電話で報告し、何でも言って貰える関係を築いている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	半年に1度は面談を実施し、ヒアリング実施している	毎月、職員会議を開催し職員の意見や提案を聞き取る機会としている。更に半年ごとに合同管理者会議を開催している。年に一度、職員個人面談を実施して職員は年間目標を設定し、オンライン研修を活用して意識や技術の向上につなげている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年に一度給与や資格手当等の確認を本人と行いながら面談の実施をしている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	インターネットを使用した研修の機会や他法人での研修の参加の機会を設けている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他施設や他法人との合同の研修の機会等を設けている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	行う事が出来ている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	LINEを使用することにより細かなコミュニケーションが図れている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	その時の状況を確認しながら行う事が出来ている		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	何でもしてあげることはせず、出来ないことを手伝う支援を行っている		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者と同じくらい大切に支援している		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	可能な限り、馴染みの場所へ出かけたりすることができるようになっている。面会制限があり馴染みの人には会うことが難しい状況	利用者の行きつけの店に洋服を買いに出かけたり、以前からの趣味の編み物を続けたりと利用者のこれまでの関わりを把握し、関係や今までの暮らしが継続する様に取り組んでいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員が間に入りながら支え合う関係が出来ている		

グループホーム たんぽぽ

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後までのフォローは行う事できていない		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	馴染みの物を持参してもらうなどして、暮らしや思いを叶えるようにしている	利用者の生活歴を把握し利用者との日常の会話や関わりの中で思いや暮らし方の意向を把握し職員間で共有して意向の実現に取り組んでいる。時にはフリー食事の日を設け、出前等希望の食事を楽しんでいる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	現状、過去の生活歴等を聞き取ることが完全ではないが、可能な限り聞き取っている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	努めている		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	作成している	利用者、家族の希望を基に職員でモニタリング、カンファレンスに取り組み、状況に即した介護計画を作成し定期的に見直しを図っている。介護記録(D-4シート)には介護計画が番号で記録され実施状況が解るようになっている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	会議で情報共有をしながら見直しを行っている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族等からの希望があれば、できる限り答えられるよう努力している		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	可能な限り活用できるよう努力している		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医に継続して受診できるよう支援している。	利用者、家族の希望するかかりつけ医へは家族対応で通院している。希望や状況で訪問診療を受けている利用者もいる。事業所に看護師が在籍し健康管理に努め、適切な医療が受けられるようになっている。	

グループホーム たんぽぽ

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	十分にできている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	よりよい関係が築けるよう努力している		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所で行えることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族との話し合いを十分に行う事ができている	入居時に「重度化した場合における看取り介護(ターミナル)指針」で説明している。また、アンケートを実施して具体的な意向を把握している。必要時には家族、医療機関と連携を取って対応する事としている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	年に一度研修を行い、施設内で実施している		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回の防災訓練等実施。地域との協力体制については再度確認が必要	感染症の流行でこれまでのような避難訓練が出来ない状況を鑑み、今年度は外国籍職員による通報訓練を主にした訓練に取り組んでいる。停電時に備え発電機、ポータブルストーブ等を準備している。	年2回の火災及び地震、他の災害を想定した避難訓練を工夫して実施する事を期待したい。

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員全体で見た際、名前呼び方等不適切に感じる場面あるため、改めていかなければならない	利用者の人格や尊厳の保持について研修で学んでいる。特に言葉使いは注意を払うように心がけると共に様々な場面で自己決定できる支援に取り組んでいる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	あらゆる角度で見て、働きかけを行っている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	時間に追われ、一人ひとりのペースを見落としてしまう事があるため、余裕を持って適していきたい		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入浴時に対応できるようしている		

グループホーム たんぽぽ

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	盛り付け、片付けなど一緒に行ったり、ホットプレートを利用し皆で楽しむことが出来ている	以前管理栄養士が作成した献立を参考に、利用者の希望や季節感を取り入れた献立を管理者が作成している。月一度、利用者と共にホットプレート料理を作ったり楽しい食事の提供に努めている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	ゼリーを使用したり、食事の彩りで食欲がわくように努めている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、促し等行っている		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	出来ないときのみ手伝うことを心がけている	利用者全員の排泄記録を作成し、タイミングやパターンを把握してさり気ない声かけ誘導で排泄支援を行っている。夜間の排泄は『眠りSCAN』を参考にしながら取り組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘気味の方に関し、トイレでのマッサージ等実施している		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	利用者の希望を全て叶えることは出来ていないが、入浴を楽しむ工夫は十分に行っている	週2回は入浴出来る様に取り組んでいる。入浴を拒む利用者には無理強いせず隣の温泉に職員と共に出かけ、安心して入浴が楽しめる様に支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の状況に応じて、対応するようにしている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	目的、副作用については不十分などところがあるため、今後の課題である		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	コロナの影響で外出等の気分転換を図ることが行えていないため、今後行っていこうにしたい		

グループホーム たんぽぽ

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	現状できていないので、今後行っていきたい	今年度は外出が難しい状況だったがドライブに出かけ海を眺めたり、桜や芝桜を楽しんでいる。近隣を散歩したりレクリエーション活動を充実する取り組みを行っている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	一緒に買い物に行くことが、コロナ渦で難しくできていない。また、認知症の施設で有り金銭の所持が出来ていない		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	大切な人との関わりややりとりは出来ている		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感の取り入れは、今する事が難しいので今後行っていきたい。電気のスイッチなどはわかりやすいよう工夫している。	24時間換気システムとなっているが、更に換気に注意を払い安心して生活できる場を提供している。ホールは窓が大きく季節感を感じる事が出来る明るい環境となっている。観葉植物等を置き家庭的な雰囲気となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	和室を設け、居場所作りに努めている		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みの物を持参してもらうなどして、居心地が良いよう工夫している	居室にはクローゼットが設置されている。利用者は使い慣れた家具や、仏壇、テレビなどを配置して自宅同様に過ごせる様な部屋作りとなっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室前の表札や扉の前の案内表示等工夫している。		

目標達成計画

事業所名 グループホームたんぽぽ

作成日：令和 5年 4月 10日

市町村受理日：令和 5年 4月 10日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	4	運営推進会議を活かした取り組みについて事業所の状況を家族や地域住民に理解してもらい、運営に反映するためにも書面会議を含め開催の工夫を期待したい	感染対策の工夫をし、2ヶ月に1回開催をする	早急に開催メンバーにメールや書面にて連絡を取り、報告や話し合いを行う。	1年
2	35	災害対策 年2回の火災及び地震、他の災害を想定した避難訓練を工夫して実施することを期待したい。	10月、3月に予定を組み実施できるようにする。	グループホームはな斜里と連携し、日程をそれぞれ2日設けることにより、はなとたんぽぽどちらかに必ず職員が出席できるよう工夫する。 地震や水害についても会議の場などで避難について考える機会を設けることとする	1年
3		サービス担当者会議 サービスの変更や内容についてご家族も交え相談し、それを別紙の書面にまとめる	最低年に1度は実施するようにする。	施設サービス計画の更新のタイミング等で報告、話し合いが出来るよう、ご家族に声をかける	1年
4					
5					

注1)項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入して下さい。

注2)項目数が足りない場合は、行を追加して下さい。